

令和元年度 小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 豊延会	代表者	川島 攻	法人・事業所の特徴	利用者一人ひとりの人権を尊重し、住み慣れた地域での生活を継続することができるよう、地域住民との交流や地域活動への参加を図ります。利用者の心身の状況、希望及びその置かれている環境を踏まえて、通いサービス、訪問サービス及び宿泊サービスを柔軟に組み合わせることにより、地域での暮らしを支援します。
事業所名	小規模多機能ハウス あさひ	管理者	津久井 洋和		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
		1 人	0 人	3 人	2 人	2 人	0 人	2 人	3 人	0 人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<p>・事業所自己評価は全職員から提出され、その内容についてミーティングや全体会議で話し合った。</p> <p>事業所自己評価は職員個々の意見が出されたが、実際の話合いでは、積極的に発言する職員がいる一方、意見があっても言えない職員もいた。</p> <p>他者の前では意見が言いにくい職員も、それぞれに考えを持っているため、個々に意見を聞き取るなど全職員の意見が反映できるようにする。</p>	<p>・ミーティングではその時の課題について話し合い、ケアの統一を図っている。その時に意見が出なくても、ケアの方向性については理解したうえで行動できている。</p>	<p>委員ご意見：【「サービス評価」は小規模多機能のみで行っているが、特養あさひは行わないのか？】</p> <p>施設回答：平成 18 年の介護保険法改正により創設された地域密着型サービスのうち、小規模多機能型居宅介護事業所および認知症対応型共同生活介護事業所（グループホーム）は、自ら提供するサービスの自己評価及び外部評価が義務付けられており、それに則ってサービス評価を実施しているところである。特養は任意で外部事業者による第三者評価を受けられるが、当施設は行っていない。</p>	<p>・ミーティングでは事業所のスタッフ全員の意見が反映されるよう少数意見も尊重し、決定事項や方向性を示す。また引き続き皆で意見が出しやすい雰囲気であるよう取り組む。</p>

項 目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・結果	意 見	今回の改善計画
B. 事業所の しつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>ご利用開始時に、面会は 8:00～20:00 の間であればいつでも可能であることを説明し、気軽に立ち寄れる施設であることを周知する。</li> <li>月ごとに行事担当職員をつけ、季節を感じて頂けるような飾り付けを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>契約時や担当者会議時にいつでも気軽に立ち寄れることを伝えていますが、面会来られる方は午前 10 時頃から午後 6 時頃までが多い。また気軽に立ち寄るといよりは洗濯物を取りに来る等、用があって来訪される場合がほとんどである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ご家族様には 20:00 までであればいつでも面会できることを伝えていますが、家族それぞれに生活パターンがあり、夕方くらいに面会させる方が多い。</li> <li>現在登録されているご利用者は、落ち着かずに外へ出ようとする方はおらず、鍵を掛けない介護が行えている。職員にも鍵を掛けない介護が浸透している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>レクリエーション担当・月担当を中心に季節感のある飾り付けを行う。</li> <li>ご利用者様が心地よく感じるよう、丁寧な言葉遣いで声の大きさに気を付ける。またご利用者様が不快に感じるような私語は慎む。</li> </ul>
C. 事業所と地域のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> <li>運営推進会議委員やこれまで交流のある組織、地元の職員からも情報提供を受け、積極的に地域行事やイベントに参加する。また参加時の職員配置が課題であるが、できるだけ当日の職員配置を厚くし、一人でも多くの利用者が参加できるようにする。</li> </ul>	<p>地域行事・イベント参加状況</p> <p>4/8 (土) 東児童館交流会 4/24 (水) ハンドマッサージボラ 6/28 (金) 民謡ボランティア 7/28 (日) こども神輿来訪 8/21 (水) あさひ夏祭り 10/26 (土) 大泉高校吹奏楽ボラ 11/9 (土) 東児童館お楽しみ会 11/10 (日) オレンジカフェ開催 11/14 (木) 大泉町町ぐるみ人権教育推進会議 11/17 (日) 大泉町保健福祉祭</p> <p>当日職員を確保したうえで月一回程度は地域交流を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>当施設のサービス利用を前提とした相談はあったが、一般的な介護相談・認知症相談はなかった。</li> </ul>	<p>委員ご意見：介護が必要になった時や困った時にどこに相談したら良いか分からない人も多い。大泉町役場や社協に相談したら良いのかか？</p> <p>施設回答：多くの方が大泉町役場や社協に相談すると思うが、当施設でも認知症相談窓口を設置しており、気軽に相談してほしい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>困りごとが当たった場合、町役場や社会福祉協議会包括支援センターだけでなく、小規模多機能ハウスあさひでも認知症相談を受け付けていることを運営推進会議やオレンジカフェ等でアピールする。</li> </ul>

項 目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・結果	意 見	今回の改善計画
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度から、大泉町でまちづくり会議が開催されている。小規模多機能ハウスあさひは、地域密着型サービス施設として何ができるか、まちづくり会議に参加し、検討に加わる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大泉町まちづくり会議は、第二層の会議に参加した。しかし業務との両立が難しく度々欠席してしまった。今後は第一層の会議に参加する。</li> </ul>	<p>施設の説明：ご利用者の体調等や職員の勤務体制で参加が難しいイベントもあったが、児童館との交流やオレンジカフェへの参加、夏祭り見学など、可能な限り地域行事に参加してきた。</p> <p>委員ご意見：地域行事が行われる際はその都度紹介するので参加をお願いしたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大泉町づくり会議（第一層）への参加を継続し、地域住民の方々と一緒に地域課題に取り組む。</li> <li>地域行事への参加は、当日の職員を確保し、可能な限り参加する。</li> </ul>
E. 運営推進会議を活かした取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>管理者以外の職員も運営推進会議に参加できるよう、勤務調整する。</li> <li>地域の心配な方や福祉関連の課題を取り上げる。必要な方は家族や関係機関と連携し、支援に繋げる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>訪問や他業務と重なったこと、常勤職員の確保が難しかったことなどにより、管理者以外の職員は参加できなかった。</li> <li>地域の心配な方の具体的な課題は取り上げられなかったが、引き続き広く意見を募る。</li> </ul>	<p>委員ご意見：運営推進会議では、月ごとの活動報告・利用状況・研修や行事等の報告を受けている。また、地域交流を深めていきたい施設の意向が伺える。</p> <p>施設意見：10月の台風災害後の運営推進会議では、防災に関する町の課題、施設の対応課題が話し合えた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設の運営状況や取組み・課題等について報告し、意見交換する。また委員の方々と地域の課題について話し合い、施設として出来ることから改善に取り組む。</li> <li>管理者以外の職員の参加機会がなかったため、常勤職員が参加できるよう調整する。</li> </ul>
F. 事業所の防災・災害対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>防災訓練は施設関係者のみでなく、地域住民も参加できるよう計画を立て、災害時の協力体制を築く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>防災訓練は引き続き施設職員のみで実施しており、地域住民の参加はなかった。また、10/12 台風災害時は施設職員のみで対応したが、地域住民との関わりをいかに広げていくかが今後の課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「10/12 台風災害について」27 区の避難場所が文化村に指定されているが、満員で中に入れなかった。一方、いずみの杜は展示があって開放されなかった。こうした情報が、一番避難が必要な人に届かない点が問題である。例えば千代田町では、一人暮らしの家には災害ラジオを置いている。災害時は情報弱者への対応が課題であると思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、防災訓練は施設関係者のみでなく、地域住民も参加できるよう計画を立て、災害時の協力体制を築く。</li> </ul>